

人間電池(?)

村田憲治(加納高校)

夏休みに、学校の理科の職員研修旅行で立ち寄った大阪市立科学館で、あっと驚く展示物を発見しました。下図のように、2枚の金属板(アルミニウムと銅)をマイクロアンペア計の端子につないだだけのシンプルなものです。(アメリカのエクスプロラトリアムから直輸入した展示物なんだって)

2枚の金属板をそれぞれ左右の手の平でベタッと触れると、40~50 μ Aの電流が流れます。

触れる手の面積を減らすと(例えば指で触れる)と電流量がグッと減ります。

学校へ帰ってきてから調べてみると起電力は0.5~0.6Vくらいでした。(触れる面積に無関係)要するに、人間の身体が食塩水の代わりにしてて、電池になっているのです。化学の授業で、食塩水で濡らしたろ紙の上に金属片を置いて、電圧計で電位差を調べるっていう実験と同じです。

でも生徒に見せたら、すごくビックリして「先生、これって人間の身体から生じる電気を測ってるの?」なんてガルバーニみたいなことを言うもんで、こっちが感動してしまいました。

